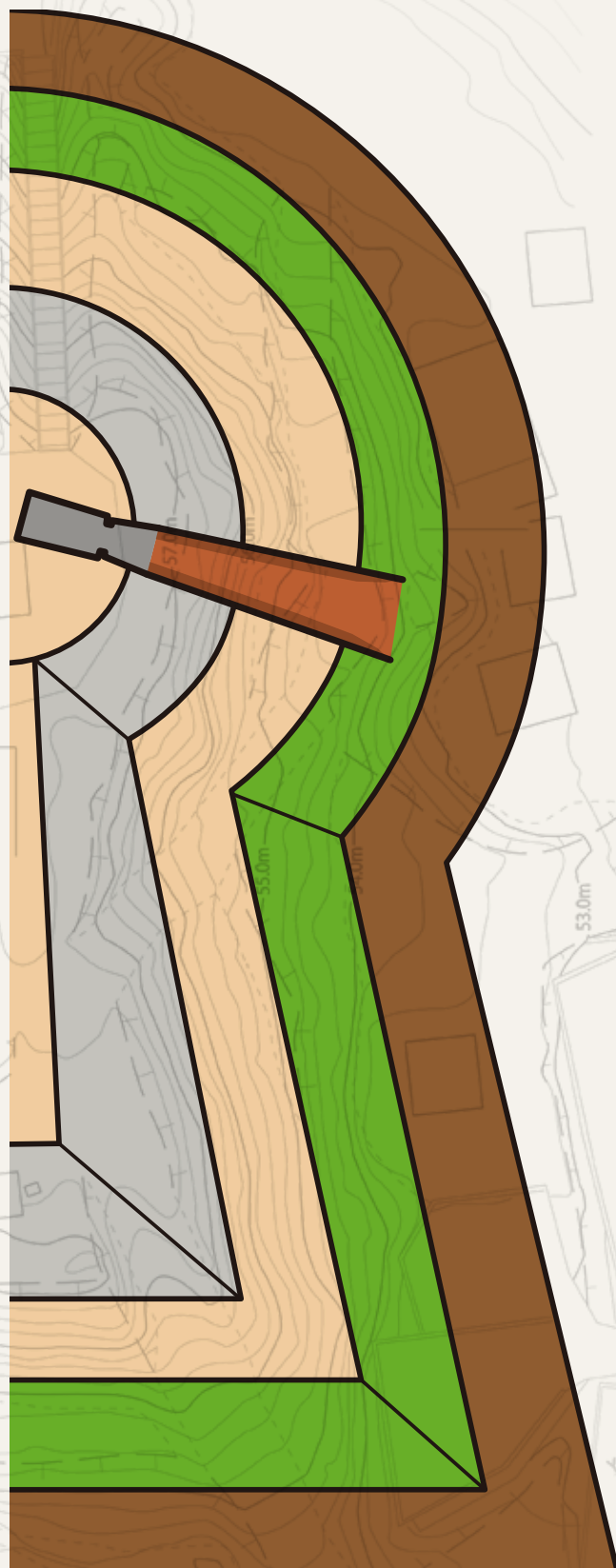


ホーケントウ古墳

福岡県指定史跡 桂川古墳群





ホーケントウ古墳

所在地…………… 飯塚市平塚

墳形/規模 …… 前方後円墳(52m)

時期…………… 6世紀中頃

出土遺物…………… 円筒埴輪、須恵器、土師器、馬具(鉄製鞍金具等)、砥石など

現状…………… 福岡県指定史跡

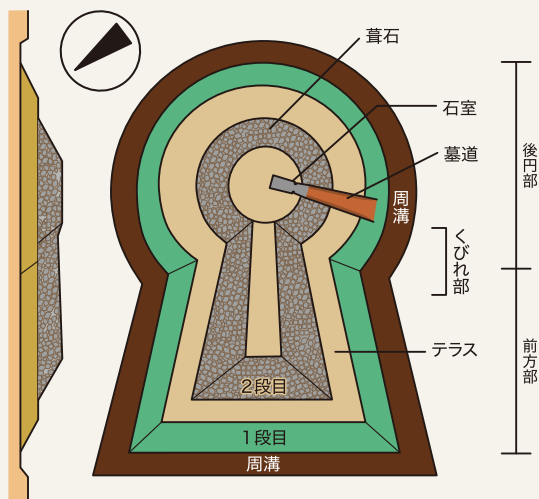
穂波川流域南部の丘陵上に立地し、周辺には王塚古墳や天神山古墳が所在します。古墳の名前は、後円部の上に江戸時代に建てられた宝篋印塔があるため、これが訛って「ホーケントウ」になったと言われています。この古墳については、遅くとも昭和37年には前方後円墳として認知されていたようです。

長い間、未調査のままでしたが、平成28年度から5年間にわたり飯塚市により発掘調査が実施され、墳丘の規模や構造が明らかとなりました。調査の結果、墳丘は2段築成の前方後円墳で、墳丘上段部のみ葺石を有し、円筒埴輪が墳頂部とテラス上に並び置かれ、周囲には周溝が存在することが分かりました。

主体部は未調査のため不明ですが、後円部南側で石室に通じる墓道が確認されたため、内部主体は横穴式石室であることが分かりました。この墓道とくびれ部の間のテラス面からは、据え置かれた須恵器の大甕3点をはじめ、器台や

脚台付壺を含む土器がまとまって出土しました。そのうち、土師質の皮袋形土器4点は大変珍しいもので、全国的に希少なものです。これらの土器は、須恵器大甕2点を除き、その出土層位から多くが追葬時の儀礼に使用されたものですが、首長墓の葬送儀礼に使用された土器を知り得るものとして重要です。

本古墳の調査を含め、周辺の古墳の調査結果を踏まえると、王塚古墳→ホーケントウ古墳→天神山古墳の順に築造されたことが明らかとなりました。ホーケントウ古墳が築造された時期は王塚古墳の追葬時期と同じ頃で、天神山古墳が築造された時期がホーケントウ古墳の追葬時期と重なります。そのため、これら3つの古墳に眠る人物は、非常に近い関係にあったと考えられます。



須恵器

ホーケントウ古墳復元図と各部名称



皮袋形土器



円筒埴輪



墳丘測量図(1/400)

0 20m

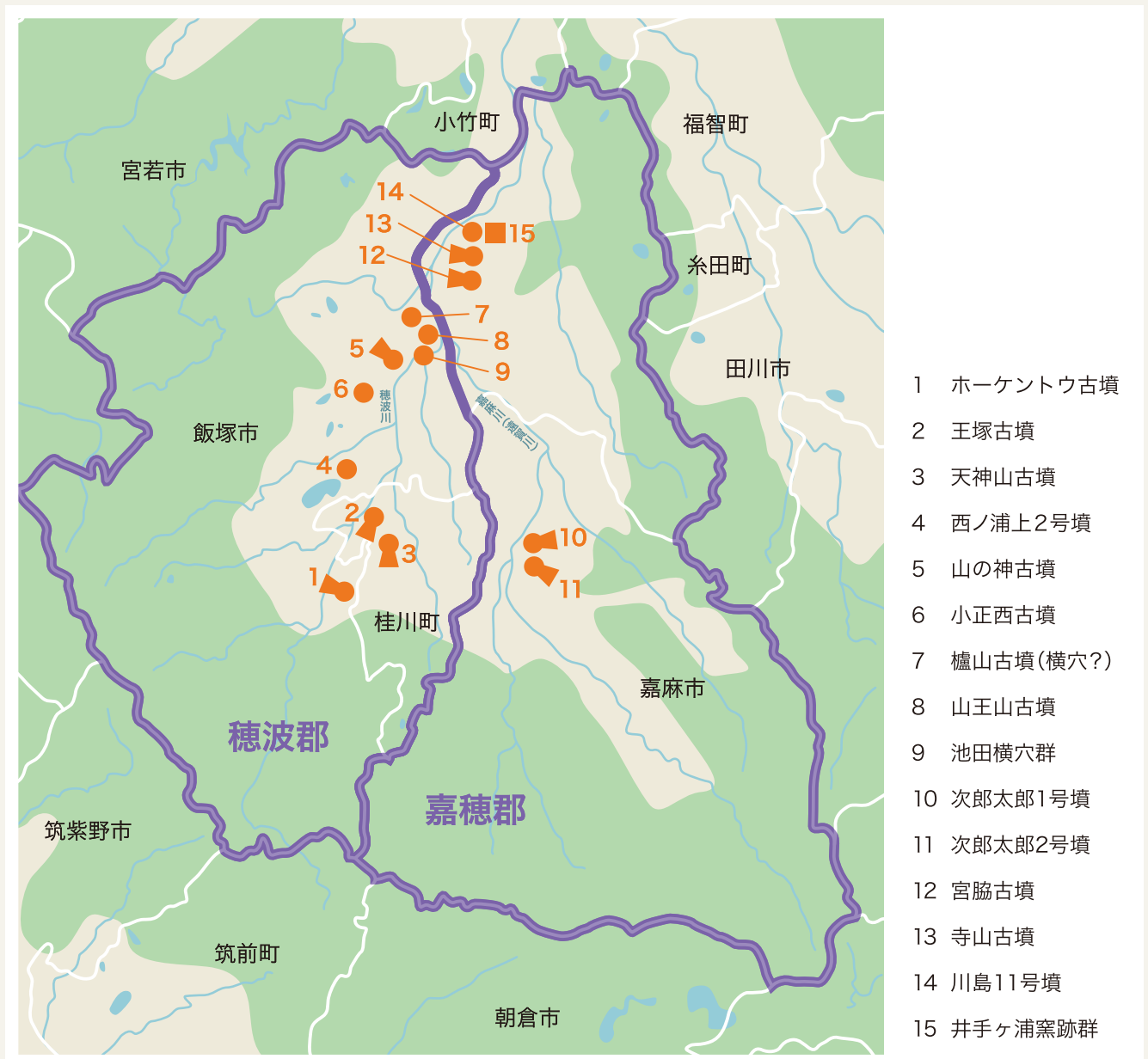
ホーケントウ古墳が造られた時代

今から約1700年～1400年前、各地で大きな古墳が築かれた時代を古墳時代と呼びます。古墳には主に前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳という形があり、規模も3m程度から500m近いものまであります。古墳の形、大きさ、古墳に供えられたモノから、その古墳に葬られた人物の地位や当時の社会構造を知ることができます。

古墳時代後期(約1500年前)の北部九州では筑紫君磐井の乱(527～528)があり、乱後の安閑二年(535)には嘉穂

地域に「穂波屯倉」・「鎌屯倉」が設置されました。穂波屯倉のホナミは穂波川流域にあたる穂波郡の郡名に、鎌屯倉のカマは嘉麻川(遠賀川本流)流域にあたる後の嘉麻郡の郡名に引き継がれると考えられています。

磐井の乱前後から屯倉の設置と大きく社会が変化する時期に、穂波川流域南部では王塚古墳、ホーケントウ古墳、天神山古墳が継続して築造されました。



穂波郡・嘉麻郡における主な古墳位置図(古墳時代後期頃)

ホナミの主な古墳(古墳時代後期頃)

やま かみ 山の神古墳

まぼろしの大型前方後円墳

昭和8年に製鉄所二瀬出張所(官営八幡製鉄所の原料供給部門)が神社建立に伴い造成を行なった際に、横穴式石室が発見されました。炭鉱では安全祈願のため愛媛県のおおやまつみ大山祇神社から分霊を受けた神社を建立することが多く、通称「山の神神社」と呼ばれていました。

石室発見時に出土した副葬品は九州大学により回収され、現在も大学で保管されています。近年これらの出土資料は、九州大学を中心に調査が行われ、多大な成果を上げました。

副葬品の組み合わせと出土状況から、埋葬は2回行われており、初葬が5世紀後半～末頃、追葬が6世紀初頭～前葉頃と考えられます。墳丘の規模と副葬品から、初葬の被葬者はヤマト王権と密接な関係にあり、朝鮮半島南部との交渉にも関わった北部九州を代表する有力者の1人と考えられます。一方、追葬の被葬者は王塚古墳の被葬者と同時代を生き、先代と変わらずヤマト王権との強い結び付きをもちながら、磐井の乱にも深く関わった人物と考えられます。

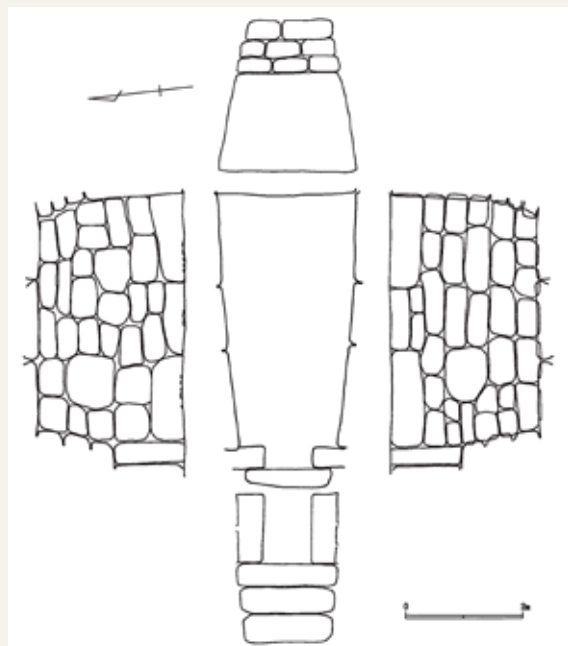
所在地……………飯塚市枝国

墳形/規模 ……前方後円墳(推定80m)

時期……………5世紀後半～末頃

出土遺物……………銅鏡2面、武器類(刀、剣、鏃、三輪玉、振り環)、
武具(衝角付冑、小札甲等)、馬具類(f字形鏡板付轡、劍菱形杏葉等)、玉類など

現状……………消滅



石室実測図(1/130)

出典『山の神古墳の研究』

初葬時の副葬品



劍菱形杏葉



画文帯環状乳神獸鏡



f字形鏡板付轡

追葬時の副葬品



劍菱形杏葉

福岡県山の神古墳出土品 盤龍鏡

所蔵者:九州国立博物館

撮影者:落合 晴彦氏



f字形鏡板付轡

(盤龍鏡以外の出土品)九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室 所蔵

お ばさ に し 小正西古墳

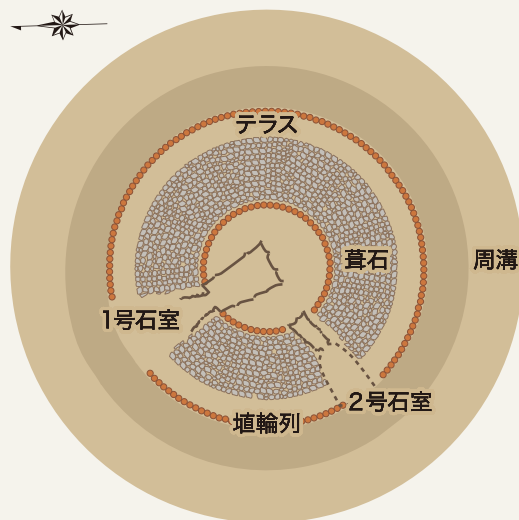
墳丘に2つの石室

平成8・9年に発掘調査が実施され、墳丘に大小2つの横穴式石室を有する珍しい古墳であることが明らかとなりました。2つの石室は主軸を直交し、同時につくられています。

墳丘は2段築成であり、墳丘上段部のみ葺石を有し、テラス上には円筒埴輪が並び置かれていました。また、様々な形象埴輪(人物、馬、家等)も発見されており、このうち巫女形埴輪は本古墳を代表する形象埴輪です。

1号石室と2号石室の被葬者の関係は不明ですが、小正西古墳の被葬者は山の神古墳の被葬者(初葬)を頂点とした組織体制下で活躍した有力者の墓と考えられます。現在は小正西古墳公園として整備されています。

所在地…………… 飯塚市小正
墳形/規模 …… 円墳(径28.5m)
時期…………… 5世紀末～6世紀初頭頃
出土遺物…………… 1号石室:武器類(剣、刀、鏃)馬具類(輪鏝、壺鏝、f字形鏡板付轡等)玉類など
2号石室:須恵器、銅鏡1面、武器類(刀、鏃)、鉄鋸、鉄鑿、装身具類(イモガイ製貝輪、玉類)など
現状…………… 福岡県指定史跡



小正西古墳復元図

はぜ やま 櫛山古墳

華麗な帯金具が出土

大正10年に宅地造成中に発見され、現在は消滅しています。出土遺物については東京国立博物館にて保管されています。主体部の図面等が残されていないため詳細については不明ですが、福岡県から宮内庁へ提出された当時の報告の内容から横穴墓と考えられています。

出土品した^{おびかなぐ}帯金具は金銅製で、朝鮮半島の^{しらぎ}新羅周辺からもたらされたものと考えられます。

所在地…………… 飯塚市西町
墳形/規模 …… 横穴墓(規模不明)
時期…………… 5世紀末～6世紀初頭頃
出土遺物…………… 武器類(刀、鏃)、馬具類(楕円形鏡板付轡、剣菱形杏葉)、ゴホウラ製貝輪、帯金具など
現状…………… 消滅

櫛山古墳の被葬者は、山の神古墳の被葬者(初葬)を頂点とした組織体制下の下部を構成した人物の墓と考えられます。



金銅製帯金具[複製品]

王塚古墳

日本古代アートの頂点

昭和9年の土取り工事中に石室が発見されました。その後、福岡県、京都大学による調査が行われました。石室全面に描かれた美しい装飾壁画は人々を驚かせ、昭和27年に国の特別史跡に指定されました。現在、前方部の一部は削られたままですが、復元すると墳長86mになり、遠賀川流域で最大の古墳です。

主体部は前室のある複室構造の横穴式石室です。後室(玄室)には石柵を設け、石屋形といわれる遺体を側面から安置する棺がつくられています。加えて、後室への入口である玄門の上部には小窓が設けられており、一つの古墳にこれらの要素(装飾壁画・石柵・石屋形・窓)を備えているのは王塚古墳だけで、筑後・肥後地方の影響を受けて造られた画期的な石室となっています。

王塚古墳の被葬者は、墳丘と石室の規模・内容からホナミ地域のトップクラスであることは間違いありません。石室の特徴や副葬品から6世紀前半において朝鮮半島南部、有明海沿岸地域、ヤマト政権のいずれとも強いつながりがあり、磐井の乱にも深く関与した人物と考えられます。

所在地…………… 桂川町寿命

墳形/規模 …… 前方後円墳(推定86m)

時期…………… 6世紀前半

出土遺物…………… 円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪、須恵器、土師器、銅鏡1面、武器類(刀、鉾、鏃、振り環等)、武器類(小札甲)、馬具類(f字形鏡板付轡、三葉文楯円形杏葉、変形剣菱形杏葉等)、装身具類(耳環、玉類)など

現状…………… 特別史跡



三葉文楯円形杏葉



円筒埴輪

(画像提供元:桂川町教育委員会)

天神山古墳

ホナミ最後の前方後円墳

昭和13年に王塚古墳の補足調査として天神山古墳の測量調査が実施され、王塚古墳と関連性がある古墳として知られるようになりました。現在、前方部と後円部が接続するくびれ部に豆田満宮があり、長らく鎮守の杜とされていたことにより墳丘、周溝、周堤が良好な状態で残されています。

平成26年度から約10年間にわたる発掘調査の結果、2段築成の前方後円墳で、墳丘に葺石や埴輪がないことが明らかとなりました。また、北東側の周堤が一部途切れており、古墳と外部を結ぶ通路の存在が明らかとなりました。

石室は未調査のため不明ですが、社殿に近い後円部西側で石室に通じる墓道が確認されたことから、内部主体は横穴式石室であることが分かりました。墓道の手前からは、様々な種類の須恵器や土師器が見つかりましたが、須恵器は装飾性の高いものが多く、壺の肩部に小さな壺や人・水鳥・騎馬・犬の土人形を付けたものがあります。

所在地…………… 桂川町寿命
墳形/規模 …… 前方後円墳(68m)
時期…………… 6世紀後半
出土遺物…………… 須恵器、土師器
現状…………… 福岡県指定史跡

天神山古墳の被葬者は、墳丘の規模、出土品等から王塚古墳の被葬者に続く、ホナミ地域のトップクラスであると考えられ、屯倉の経営にも深く関係した人物と考えられます。



山王山古墳

敲打技法による装飾古墳

江戸時代より知られている古墳でしたが、平成21年度から2回にわたる発掘調査が実施され、石室の奥壁に敲打技法による文様が描かれた装飾古墳であることが明らかとなりました。敲打技法とは、石材の表面を工具等で細かく叩き若干の凹みをつけて文様を表現する技法のことで、筑後川流域に分布の中心があることで知られています。山王山古墳では、石室の奥壁の表面に敲打技法による円文が少なくとも12個確認されています。

調査前より石室は開口していましたが、金銅製馬具など質的に高い副葬品が出土しました。特に、大刀の円頭柄頭には銀象嵌による文様が施される逸品です。被葬者は穂波川北部流域の有力者で、敲打技法による装飾古墳であることから筑後川流域とのつながりをもった人物と考えられます。

所在地…………… 飯塚市西徳前
墳形/規模 …… 円墳(径20m)
時期…………… 6世紀末～7世紀初頭
出土遺物…………… 武器類(円頭柄頭、刀、鏃、弓金具等)、馬具類(鞍金具、S字形鏡板付轡等)、装身具類(耳環、玉類)
現状…………… 福岡県指定史跡



カマの主な古墳と遺跡(古墳時代後期頃)

みやのわき

宮脇古墳

謎の前方後円墳

昭和24年に寺山古墳が発見された後に、発見された前方後円墳です。主体部は前室のある複室構造の横穴式石室で、副葬品は後室(玄室)から確認されました。また、墳丘及びその周辺から埴輪は発見されていません。

宮脇古墳は、近接する寺山古墳(前方後円墳)の前段階に築造された前方後円墳であることから、両者の関係について注目されます。現在、古墳は消滅していますが、石室のみ市内の^{せいちゅう}旌忠公園に移築されています。

所在地…………… 飯塚市川島

墳形/規模 …… 前方後円墳(推定35m)

時期…………… 6世紀前半

出土遺物…………… 須恵器、武器類(刀、鏃等)、馬具類(多鈕鉄製f
字形鏡板付轡、多鈕扁円剣菱形杏葉)など

現状…………… 消滅(石室のみ移築)



てら やま

寺山古墳

カマ、最後の前方後円墳

昭和24年に発見された前方後円墳で、昭和57年から4年間にわたり発掘調査が実施されました。その結果、主体部は石材採取のため破壊されていましたが、墳丘の周囲に周溝があることが確認されました。

埴輪は円筒埴輪、朝顔形埴輪のほかに、人物、馬等の形象埴輪も出土しています。寺山古墳の特徴としては、これらの埴輪が墳丘に並び置かれることなく、周溝の一部に集中的に並べ置かれていることです。埴丘に埴輪を並べ置くという慣習の終わりが垣間見える事例として貴重です。

寺山古墳が築造された同時期頃、近隣にある井手ヶ浦窯跡で須恵器生産が始まります。そのため、寺山古墳の被葬者は、須恵器の生産と鎌屯倉にも深く関係していた人物と考えられています。

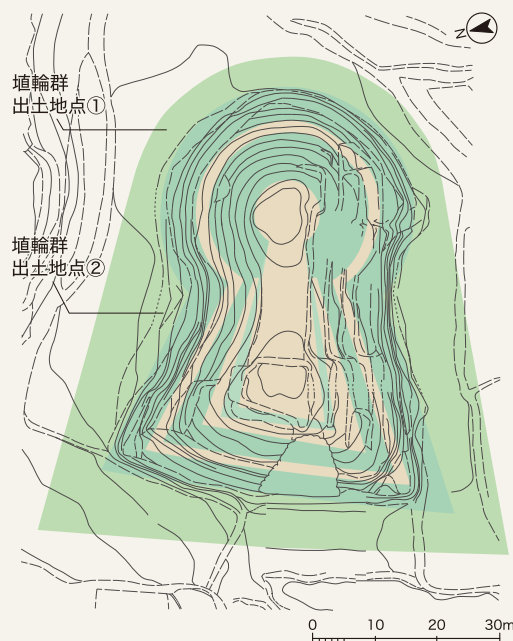
所在地…………… 飯塚市川島

墳形/規模 …… 前方後円墳(68m)

時期…………… 6世紀後半

出土遺物…………… 円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪

現状…………… 現存(石室は破壊)



墳丘測量図(1/1200)

かわしま

川島11号墳

カマ、唯一の装飾古墳

昭和63年の道路改良工事中に発見され、発掘調査の結果、装飾古墳であることが明らかとなりました。

主体部は前室のある複室構造の横穴式石室で、石柵を有する玄室の奥壁に装飾壁画があり重要な古墳です。装飾文様は緑～青系と赤色の2色で、人物、円文などが描かれています。

寺山古墳に続く首長墓と考えられ、寺山古墳と同じく井手ヶ浦窯跡における須恵器の生産を管轄していた人物が被葬者として考えられています。

所在地…………… 飯塚市川島
墳形/規模 …… 円墳(径15m)
時期…………… 6世紀末
出土遺物…………… 武器類(大刀、刀子、鉄鏃)、馬具(環状鏡板付轡、雲珠、辻金具)、装身具類(耳環、管玉等)など
現状…………… 福岡県指定史跡

い で が う ら か ま あ と
井手ヶ浦窯跡

遠賀川流域、最大の須恵器生産地

これまで4回にわたって発掘調査が実施され、須恵器の窯跡が13基確認されています。須恵器を焼いた窯は、丘陵の斜面を利用してトンネル状に掘り抜いた^{あながま}窖窯と呼ばれる構造のものです。

平成20年度の調査で確認された11号窯では、窯詰めのままの状態^{あながま}で須恵器が150点出土しました。

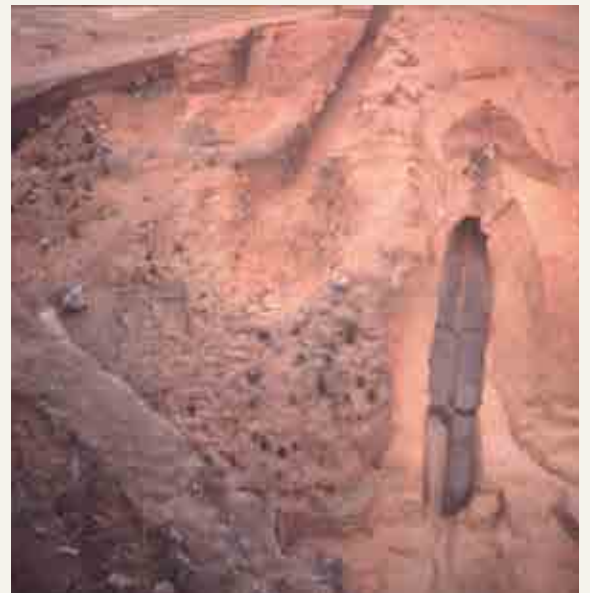
須恵器の胎土を分析したところ、ホーケントウ古墳・天神山古墳出土の須恵器の多くが井手ヶ浦窯跡で生産された可能性が高いことが明らかとなりました。

所在地…………… 飯塚市鯉田
種別…………… 生産遺跡(須恵器の窯跡)
操業時期…………… 6世紀中頃～7世紀初頭頃
出土遺物…………… 須恵器
現状…………… 現存(一部消滅)

井手ヶ浦窯跡で生産された須恵器が、嘉麻川流域のみでなく、穂波川流域も含めた嘉穂盆地の中で広く流通していたことが分かります。



11号窯跡須恵器出土状況



11～13号窯跡

次郎太郎2号墳

仲良く並んだ謎の前方後円墳①

昭和40年の採土工事により破壊された状態で次郎太郎1号墳と一緒に発見されました。そのため、墳丘や主体部などの詳しいことは分かりません。しかし、幸いにも旧福岡県立稲築高校郷土部により、円筒埴輪や須恵器の破片が採取されたことで築造時期や古墳の性格付けがある程度明らかとなっています。

次郎太郎2号墳は隣接する次郎太郎1号墳より一段階古い前方後円墳であり、1号墳を含めこれらは同一系譜の首長墓と考えられます。

所在地…………… 嘉麻市漆生
墳形/規模 …… 前方後円墳(推定50m)
時期…………… 6世紀前半
出土遺物…………… 円筒埴輪、須恵質埴輪壺、須恵器など
現状…………… 消滅



次郎太郎古墳群周辺旧地形図(1万分の1)昭和35年5月
出典『次郎太郎古墳群』

次郎太郎1号墳

仲良く並んだ謎の前方後円墳②

次郎太郎2号墳と同じく昭和40年の採土工事により破壊された状態で発見されました。そのため、墳丘や主体部などの詳しいことは分かりませんが、旧福岡県立稲築高校郷土部により、採取された形象埴輪(人物埴輪、盾形埴輪)等から築造時期や古墳の性格付けがある程度明らかとなっています。人物埴輪は、頭に冠をのせ、下げミズラを結っています。胴体部分には、衣服の表現がなくシンプルな仕上げとなっています。

次郎太郎2号墳に続く同一系譜の首長墓と考えられ、鎌屯倉にも何らかの形で関係した人物と考えられます。

所在地…………… 嘉麻市漆生
墳形/規模 …… 前方後円墳(推定50m)
時期…………… 6世紀後半
出土遺物…………… 形象埴輪
現状…………… 消滅



盾形埴輪

人物埴輪

(画像提供元:嘉麻市教育委員会)

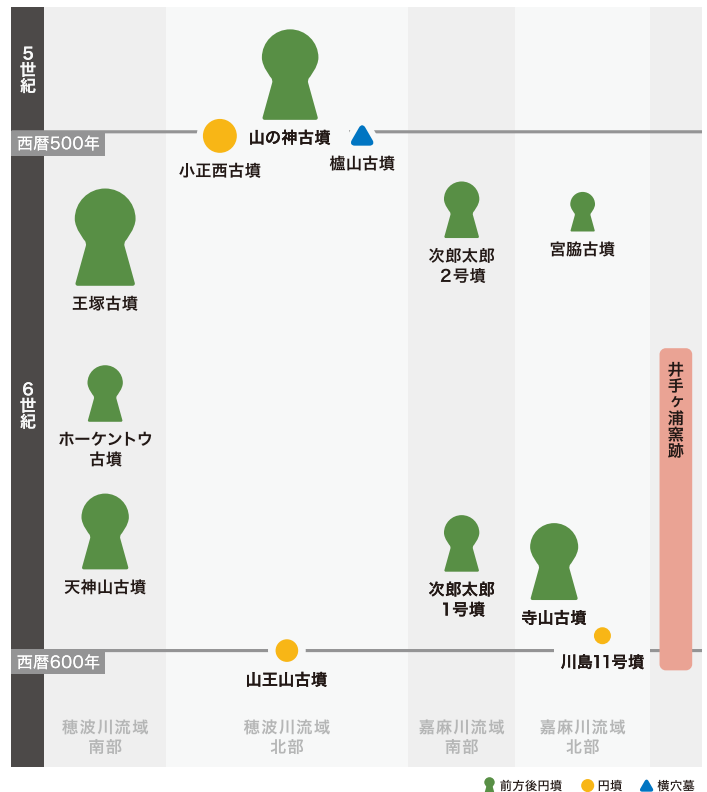
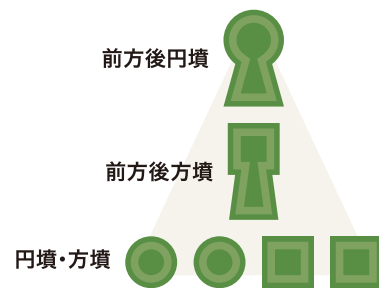
古墳時代の基礎知識

古墳の形

古墳時代になると、それまでの時代には見られなかった、まったく新しい形のお墓が登場します。それが「前方後円墳」です。円と四角を組み合わせたような形で、空から見ると鍵穴のような形をしています。古墳には前方後円墳のほかにも、東海地方や山陰地方などで多く見られる後円部が方形をした前方後方墳、平面形が丸い円墳や四角い方墳、さらに丘陵の斜面などに横穴を掘ってつくられた横穴墓など、さまざまな形があり、ほぼ日本列島の各地でつくられるようになります。

また、古墳の形や大きさには、被葬者の身分や地位が反映されるようになります。最も格式高い形は前方後円墳であり、特に巨大な前方後円墳は、その地域を治めた有力な首長の墓と考えられています。一方、円墳は全国で数多くつくられ、より一般的な古墳として広く分布しています。

このように、古墳の形や大きさ、そしてその分布を見ていくと、古墳時代の社会には、地域ごとの特色を残しながらも、共通したルールや身分秩序が広がっていたことがわかります。



古墳時代の馬

日本に初めて馬がやってきたのは、古墳時代中頃です。朝鮮半島との交流を通じて、馬や馬の飼育技術が本格的に伝わったと考えられています。当時、馬を飼育できたのは一部の有力者に限られていました。そのため、馬具には実用的な道具だけでなく馬を華やかに飾るための装飾品としての馬具もありました。これらは、古墳の副葬品としてもよく出土します。金色に輝く馬具は、自分のもつ権力のアピールにもなっていたことがわかります。

